

第3回「中部圏の暮らし」に関するアンケート調査結果

財団法人中部産業・地域活性化センター
地域整備部 石田 光弘

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 財団法人中部産業・地域活性化センターでは、前身である社団法人中部開発センターが2003年9月、2008年9月に実施した「暮らしに関するアンケート」調査を継続して実施し、暮らしの満足度に対する地域の人々の意識やその変化を調査・分析した。
- 今回は2008年のリーマンショックが、地域住民の暮らしに対する意識に影響を与えたのか注目しつつ考察を行なった。

(2) アンケート調査の実施方法

- 調査方法：インターネットを利用したアンケート調査。
- 実施時期：2010年6月
- 有効回答数：6,000人
- 設問数：25問（設問内容は前回と同じ）

前回に続いて「暮らしの環境全般」「暮らしの便利さ」「暮らしを楽しむ魅力」「暮らしの安全・安心」の4項目に加え、「暮らしをより良くするために必要なこと」「将来暮らしてみたい都道府県」についてのアンケートを実施し、設問内容には継続性を持たせた。

(3) 回答者の属性

- 男女構成比：男性52.9%、女性：47.1%にてほぼ半々。
- 年齢別構成：対象は全年齢で実施。ただしモニターの年齢層が30代、40代中心のため、実際の年齢別人口構成と比較して高齢者と若年者の回答数は少ない結果となっている。
- 地域別構成：アンケートの対象者は全国。前回同様、中部圏のモニター数を4割とし、残りを各地域の人口構成比に準じて按分した。

回答者の年齢構成

年(西暦)	2003(前々回)		2008(前回)		2010(今回)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
全体	9,013	100.0%	5,466	100.0%	6,000	100.0%
29歳以下	2,778	30.8%	1,353	24.8%	802	13.4%
30～39歳	3,131	34.7%	1,786	32.7%	1,972	32.9%
40～49歳	2,084	23.1%	1,214	22.2%	1,822	30.4%
50～59歳	757	8.4%	794	14.5%	806	13.4%
60歳以上	263	2.9%	319	5.8%	598	10.0%

(参考：実際の人口構成)

年(西暦)	2010
全体	100.0%
29歳以下	29.3%
30～39歳	14.3%
40～49歳	12.9%
50～59歳	13.0%
60歳以上	30.4%

統計局：人口推計
年齢（5歳階級）男女別人口
（平成22年2月確定値）

回答者の地域分布

年（西暦）	2003（前々回）		2008（前回）		2010（今回）	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
全国	9,013	100.0%	5,466	100.0%	6,000	100.0%
中部圏	3,158	35.0%	2,133	39.0%	2,368	39.5%
うち東海	2,758	30.6%	1,925	35.2%	1,871	31.2%
うち北陸	161	1.8%	96	1.8%	183	3.1%
首都圏	2,688	29.8%	1,513	27.7%	1,628	27.1%
近畿圏	1,758	19.5%	981	17.9%	1,098	18.3%

注）本文中で用いた地域区分は以下のとおり。各都市圏整備法に基づいた地域区分としている。

中部圏：富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀の9県

東海：愛知、岐阜、三重、静岡の4県

北陸：石川、福井、富山の3県

首都圏：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨の1都7県

近畿圏：福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府6県

2. 調査結果

(1) 今回のアンケートの全体的な傾向（表1、表2）

- 前回調査（2008年）と同様、現在住んでいるところの満足度について、20項目にわたり5段階で評価してもらった。
- 「暮らしの環境全般」「暮らしの便利さ」「暮らしを楽しむ魅力」「暮らしの安全・安心」の大きな4つの項目において、前回のアンケートまでは中部圏と他の大都市圏では殆んど差が無いという結果であったが、今回はやや地域によりバラツキがみられた。4つの大項目のうち「暮らしの環境全般」は全地域において前回より満足度が上昇し、「暮らしの安全・安心」は大都市圏中心に若干低下。「暮らしの便利さ」は中部圏のみ低下がみられ、「暮らしを楽しむ魅力」は全国的に満足度が低下している中、特に中部圏において大きく落ち込んでいる。
- 項目別に詳しくみると、「暮らしの環境全般」は全国的に「住環境の良さ」、「緑の多さや自然の豊かさ」に対する満足度が上がる一方で、首都圏を除く地域で「教育機関の選択肢の多さ」の満足度が下がった。
- 「暮らしを楽しむ魅力」は全地域とも全項目で満足度が低下。そして今回のアンケートの中で最も満足度の低い項目であった。中でも「テーマパークなど遊べる施設の充実度」、「最先端の流行や情報に触れる機会」の質問で、前回と比べ、中部圏、特に北陸地方が大きく低下した。

表1 現居住地の満足度評点（地域別）

項目	全国	首都圏	中部圏		近畿圏	
			うち東海	うち北陸		
住環境の良さ（静けさ、町並みなど）	3.43	3.44	3.42	3.38	3.58	3.43
緑の多さや自然の豊かさ	3.61	3.51	3.64	3.53	3.91	3.53
教育環境の良さ	3.01	3.07	3.01	3.00	3.27	3.04
高等学校や専門学校、大学など、進学できる教育機関の選択肢の多さ	2.76	3.01	2.65	2.73	2.45	2.83
気候の良さ	3.18	3.20	3.17	3.19	2.66	3.14
5項目計（暮らしの環境全般）	3.20	3.25	3.18	3.17	3.17	3.20
通勤や通学の便利さ	3.05	3.22	2.93	3.01	2.72	3.14
通勤や通学時の公共交通機関の混雑度	2.87	2.76	2.87	2.86	2.81	2.97
バスや鉄道といった公共交通機関の充実度	2.56	2.86	2.36	2.47	1.89	2.77
スーパーマーケット、コンビニなど日常の買い物の便利さ	3.33	3.36	3.32	3.36	3.24	3.42
高速道路や新幹線など高速交通網へのアクセス	2.98	3.09	2.99	3.04	2.59	2.95
5項目計（暮らしの便利さ）	2.96	3.06	2.89	2.95	2.65	3.05
ショッピング（デパート、専門店など）の魅力	2.66	2.74	2.62	2.70	2.34	2.74
テーマパークや遊園地など、遊べる施設の充実度	2.00	2.19	1.96	2.07	1.48	2.10
公園やテニスコート、ゴルフ場など手軽にスポーツを楽しめる施設の近さ	2.59	2.72	2.56	2.55	2.56	2.65
美術館や博物館、コンサートなど文化的な魅力に触れる機会の多さ	2.25	2.32	2.21	2.19	2.33	2.22
最先端の流行や情報に触れる機会の多さ	2.16	2.30	2.05	2.11	1.91	2.17
5項目計（暮らしを楽しむ魅力）	2.33	2.45	2.28	2.32	2.12	2.38
救急病院や保健所など、保健・医療施設の充実度	2.96	3.02	2.93	2.94	2.89	3.00
治安の良さ	3.27	3.18	3.27	3.18	3.75	3.31
地震や台風など災害への対策	2.98	3.00	2.98	2.96	3.15	2.94
子育てに対する地域の支援	2.87	2.90	2.88	2.85	3.15	2.90
福祉やバリアフリーといった高齢者などへの支援	2.74	2.76	2.74	2.72	2.88	2.77
5項目計（暮らしの安全・安心）	2.96	2.97	2.96	2.93	3.17	2.98
全体合計	2.86	2.93	2.83	2.84	2.78	2.90

<評価方法>

- 5段階評価の平均得点
- 5 = 高い（良い）、4 = やや高い（やや良い）、3 = 普通、2 = やや低い（やや悪い）
1 = 低い（悪い）

表2 現居住地の満足度の変化（2008年対比増減：地域別）

項目	全国	首都圏	中部圏		近畿圏	
			うち東海	うち北陸		
住環境の良さ（静けさ、町並みなど）	0.88	0.87	0.89	0.83	1.36	0.90
緑の多さや自然の豊かさ	1.18	0.96	1.20	1.22	1.95	1.05
教育環境の良さ	0.07	0.14	0.10	0.05	0.54	0.13
高等学校や専門学校、大学など、進学できる教育機関の選択肢の多さ	-0.32	0.17	-0.51	-0.63	-0.91	-0.20
気候の良さ	0.46	0.47	0.42	0.60	-0.53	0.44
5項目計（暮らしの環境全般）	0.46	0.52	0.42	0.41	0.48	0.46
通勤や通学の便利さ	0.20	0.55	0.03	-0.08	-0.74	0.36
通勤や通学時の公共交通機関の混雑度	-0.23	-0.46	-0.24	-0.29	-0.10	-0.02
バスや鉄道といった公共交通機関の充実度	-0.67	-0.05	-1.01	-1.09	-1.91	-0.32
スーパーマーケット、コンビニなど日常の買い物の便利さ	0.79	0.90	0.75	0.73	0.52	0.95
高速道路や新幹線など高速交通網へのアクセス	0.11	0.25	0.25	0.17	-0.83	0.07
5項目計（暮らしの便利さ）	0.04	0.24	-0.05	-0.11	-0.61	0.21
ショッピング（デパート、専門店など）の魅力	-0.55	-0.38	-0.62	-0.68	-1.07	-0.40
テーマパークや遊園地など、遊べる施設の充実度	-1.85	-1.49	-1.86	-1.82	-2.85	-1.67
公園やテニスコート、ゴルフ場など手軽にスポーツを楽しめる施設の近さ	-0.71	-0.46	-0.74	-0.79	-0.69	-0.64
美術館や博物館、コンサートなど文化的な魅力に触れる機会の多さ	-1.37	-1.23	-1.41	-1.59	-1.15	-1.40
最先端の流行や情報に触れる機会の多さ	-1.50	-1.14	-1.69	-1.78	-1.97	-1.48
5項目計（暮らしを楽しむ魅力）	-1.19	-0.94	-1.26	-1.33	-1.55	-1.12
救急病院や保健所など、保健・医療施設の充実度	-0.07	0.10	-0.10	-0.19	-0.20	-0.06
治安の良さ	0.39	0.27	0.31	0.31	1.41	0.45
地震や台風など災害への対策	-0.14	-0.11	-0.17	-0.17	0.16	-0.18
子育てに対する地域の支援	-0.22	-0.16	-0.22	-0.27	0.14	-0.23
福祉やバリアフリーといった高齢者などへの支援	-0.50	-0.42	-0.53	-0.57	-0.19	-0.45
5項目計（暮らしの安全・安心）	-0.11	-0.06	-0.14	-0.18	0.27	-0.09
全体合計	-0.20	-0.06	-0.26	-0.30	-0.35	-0.13

(2) 各項目別の満足度

- 今回の調査で浮かび上がってきたのは、中部圏（特に東海）、首都圏、近畿圏との間の差以上に東海地方と北陸地方で暮らしの満足度に差があったことである。（特に「暮らしの便利さ」「暮らしの安全・安心」）これは地域間の差よりも大都市圏と地方圏の生活環境の差が、暮らしの満足度に与える影響が大きいとも考えられる。以下、特徴のあった項目や前回から大きく変動した項目に絞ってコメントしたい。

①暮らしの環境全般

a) 自然環境

- 緑の多さや自然の豊かさ

この項目は中部圏が他の大都市圏にくらべ良好であった項目であるが、中部圏の中でも北陸地方の満足度が高く、中部圏全体の結果を押し上げている。実際のデータでも北陸地域は森林面積の割合が高く、緑豊かな環境で生活していることがうかがわれる。

- 気候の良さ

中部圏全体で見れば他の大都市圏と大差無いが、各地域を細かく分析すると北陸地方の満足度は低い。降水量、特に雪の多さが地域住民の大きな負担となっていると考えられる。

各県別に見ても気候の満足度が高い県は太平洋側、低いのは日本海側に集中しており、気候条件が暮らしの満足度に影響していることが結果に表れた(表3)。

表3 気候の良さ(アンケートより)

ベスト5		ワースト5	
都道府県	評点	都道府県	評点
岡山県	3.95	富山県	2.57
沖縄県	3.75	新潟県	2.62
静岡県	3.71	京都府	2.65
愛媛県	3.67	島根県	2.67
大分県	3.63	石川県	2.68

b) 教育環境

- 教育環境の良さ

中部圏全体では他の大都市圏と大差が無いが、中部圏の中では北陸地方の満足度が高かった。各県別の満足度の評点でもベスト5に北陸3県がランクインしている(表4)。ここでは「良い教育環境」の内容について確認していないが、本年1月に当センターが実施した教育に関するアンケートでは、「子供たちがのびのびと学習できること」を重要視する結果が出ており、北陸地方はそのような環境にあると考えられる。また、文部科学省が実施している全国学力・学習状況調査でも北陸3県は全国平均を上回る好結果となっており、教育環境の良さもその一因であろうか。

表4 教育環境の良さ(アンケートより)

ベスト5		
都道府県	評点	学力調査平均正答率(%)
福井県	3.30	74.6
石川県	3.29	71.6
秋田県	3.28	74.0
福岡県	3.20	66.9
富山県	3.18	73.4

学力調査の全国平均(%)	68.4
--------------	------

資料(学力調査):文部科学省
2009年度全国学力・学習状況調査
(中学校)

- 高等学校や専門学校、大学など、進学できる教育機関の選択肢の多さ。

この項目は中部圏が他の大都市圏に比べ低く、特に北陸地方の満足度は低い。当センターが本年1月に実施した教育に関するアンケートでも、子供を地元以外に進学させる理由として「学びたい学部が地元が無い」ことを理由に選択した比率は北陸地方が高かった（表5）。

表5 子供を地元の大学や専門学校に進学させたくない理由

理 由	全国	首都圏	中部圏		近畿圏
			東海	北陸	
本人の学びたい学部・学科・課程が地元にはないから	39.4	34.4	45.7	31.9	53.3

資料：当センター 「地域の教育について考える」アンケート（実施：2010年）

②暮らしの便利さ

- 通勤や通学時の公共交通機関の混雑度

全国的に混雑に対する満足度は下がったが、首都圏、中部圏の低下に対し、近畿圏がほぼ横ばいとなっている。満足度の高さは、近畿圏、中部圏、首都圏の順となった。

- バスや鉄道といった公共交通機関の充実度

この項目に対する満足度は今回全国的に下がっているが、その中でも中部圏は特に大きく下がった。

2008年のアンケートでは中部圏の満足度は、首都圏、近畿圏を上回り非常に高かった。この時期は2005年の愛知万博に向けて、中部圏の交通インフラが急速に整備された後であり、中部圏の居住者の満足度が大幅に上がっていたと考えられる。一方、今回のアンケートでは、リーマンショック以降の景気後退により行なわれた公共交通機関の不採算路線の見直しなども影響した可能性が考えられる。

③暮らしを楽しむ魅力

「暮らしを楽しむ魅力」の満足度は今回全地域において低下しているが、中部圏は特に大きく低下した。

この項目では全ての質問について満足度が低下しており、特に遊べる施設の充実度、最新の流行や情報に触れる機会の多さの項目について、中部圏の低下幅は大きい。

回答者を年齢別にみると、高齢者（60歳以上）は他の年代ほど満足度が低くはなく、現在の環境に肯定的であるのに対し、30代～40代の満足度は他の年代と比較して総じて低い結果となった。

表6 暮らしを楽しむ魅力 (年齢別)

評点		ショッピング(デパート、専門店など)の魅力	テーマパークや遊園地など、遊べる施設の充実度	公園やテニスコート、ゴルフ場など手軽にスポーツを楽しむ施設の近さ	美術館や博物館、コンサートなど文化的な魅力に触れる機会の多さ	最先端の流行や情報に触れる機会の多さ	評点の平均
全体		2.66	2.00	2.59	2.25	2.16	2.33
年齢	29歳以下	2.73	2.04	2.62	2.26	2.21	2.37
	30~39歳	2.59	1.93	2.55	2.21	2.09	2.27
	40~49歳	2.62	1.97	2.58	2.21	2.13	2.30
	50~59歳	2.72	2.02	2.60	2.27	2.18	2.36
	60歳以上	2.81	2.23	2.73	2.43	2.36	2.51

④暮らしの安全・安心

・治安の良さ

治安に対する満足度は北陸地方が高い。これは警察白書の人口当たりの犯罪発生率にも符合している(表7)。一方、大都市圏は地方に比べ犯罪発生率が高く、満足度も地方に比べ低い。大都市圏の中でも大阪府や愛知県は犯罪発生率が高く、治安の満足度も低い結果となっている(表8)。

表7 各圏域別刑法犯の認知件数

	総人口 (2008年)	刑法犯総数 (交通業過を除く)		
	(万人)	認知件数	人口1万人当たり	
首都圏	4,284	655,698	153.1	
中部圏	2,183	305,888	140.1	
	うち東海	1,518	242,787	159.9
	うち北陸	308	26,541	86.2
近畿圏	2,353	430,282	182.9	

資料：2009年 警察白書、
総人口は総務省統計局2010年社会・人口統計

表8

治安の良さ (アンケートより)

ワースト5

都道府県	評点
福岡県	2.91
愛知県	3.00
大阪府	3.04
茨城県	3.05
山梨県	3.08

都道府県別刑法犯総数 (交通業過を除く)

ワースト5

都道府県	人口1万人当たり(件)
大阪府	229.1
愛知県	195.5
京都府	191.1
福岡県	178.9
兵庫県	174.5

資料
2009年警察白書
総務省統計局
2010年社会・人口統計

(3) 暮らしをより良くするために必要なこと (図1、図2)

・住環境の向上

住環境については首都圏、近畿圏、中部圏の順でその向上へのニーズが高い。地域別の持ち家住宅の面積からも分かるように中部圏、特に北陸地方は首都圏、近畿圏に比べ余裕のある居住空間で生活していることも背景のひとつと考えられる (表9)。

・医療福祉サービスの充実を求める声は多く、高齢者になる程そのニーズは高い。同時にバリアフリー化の促進や自然環境の保護を望む声も高齢者には多い。

・反対にショッピング・レジャーの充実や、子育てに対する地域の支援に対する要望は若い世代に多い。

・公共交通機関の充実を求める声は全世代に渡って大きく、中部圏は特にその要望が強い。

図1

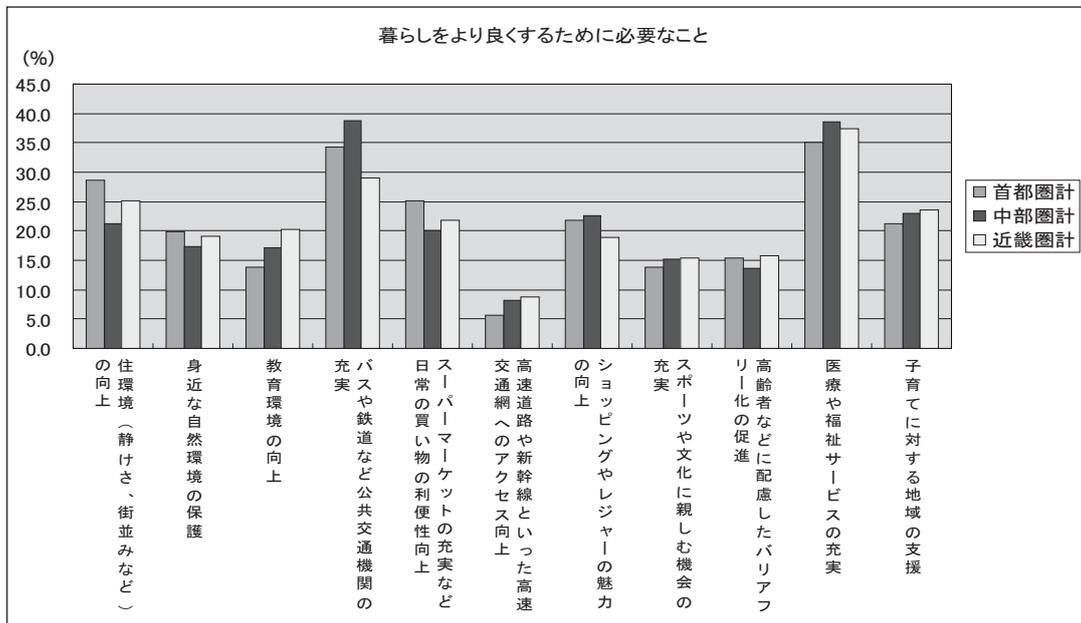


図2

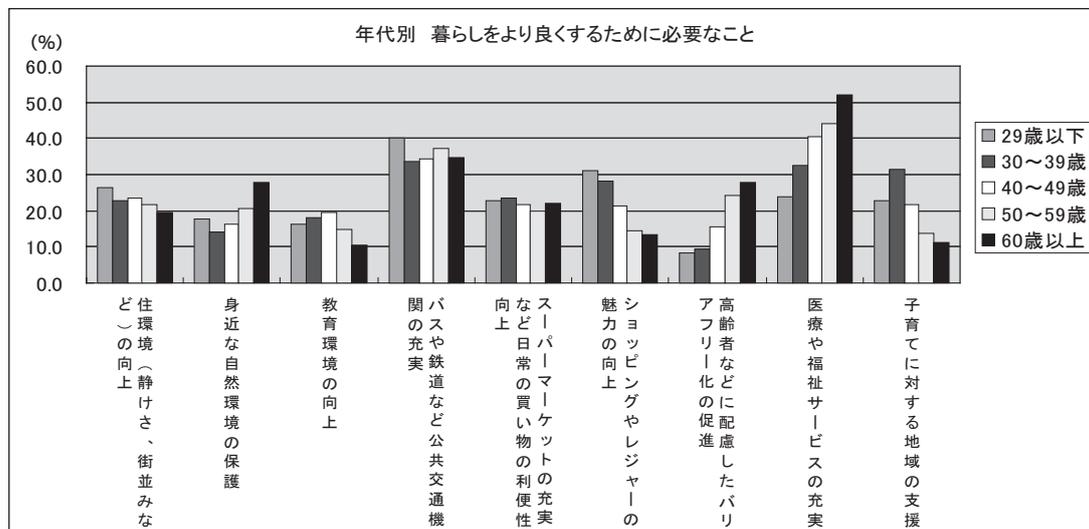


表9

持ち家住宅の延べ面積(m²)

年(西暦)	2003年
全国	123.9
首都圏	118.7
中部圏	152.7
うち東海	137.4
うち北陸	173.9
近畿圏	131.5

資料：総務省統計局

(4) 特に日常生活の交通で重要なこと(図3、図4)

- 各圏域、各世代共通で要望が高いのは公共交通機関の利便性の向上であった。中部圏は移動手段に占める自動車の利用割合が高く、首都圏ほど公共交通機関は整備されていないことから、よりそのニーズは高いものと考えられる。
- 自転車を利用することへの関心も高く、駐輪場の増設や自転車専用道の充実といった利便性向上を望む声も大きかった。そして年齢が上がるに従い、自転車を大切な移動手段と考えている様子がかがいがい知れる。

図3

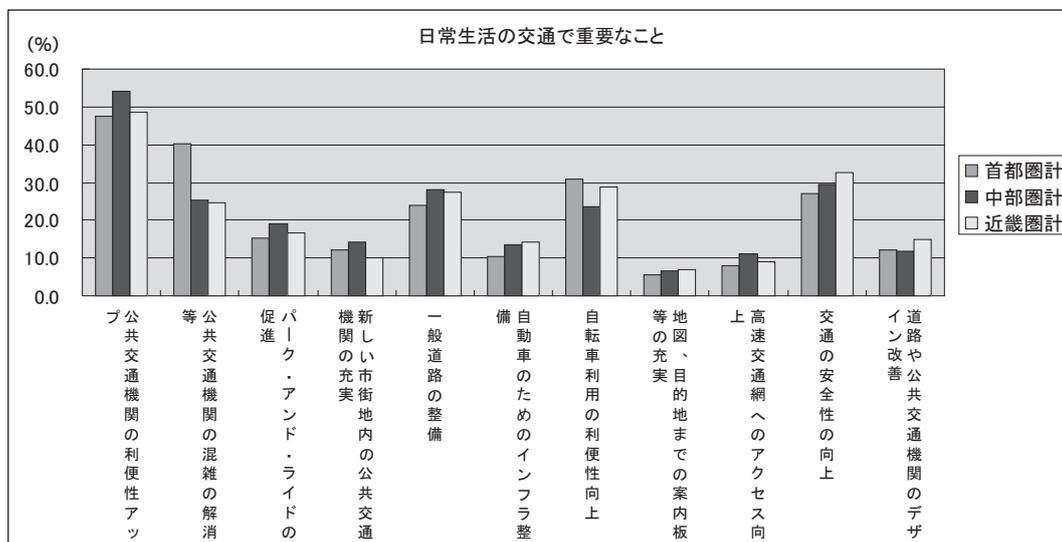
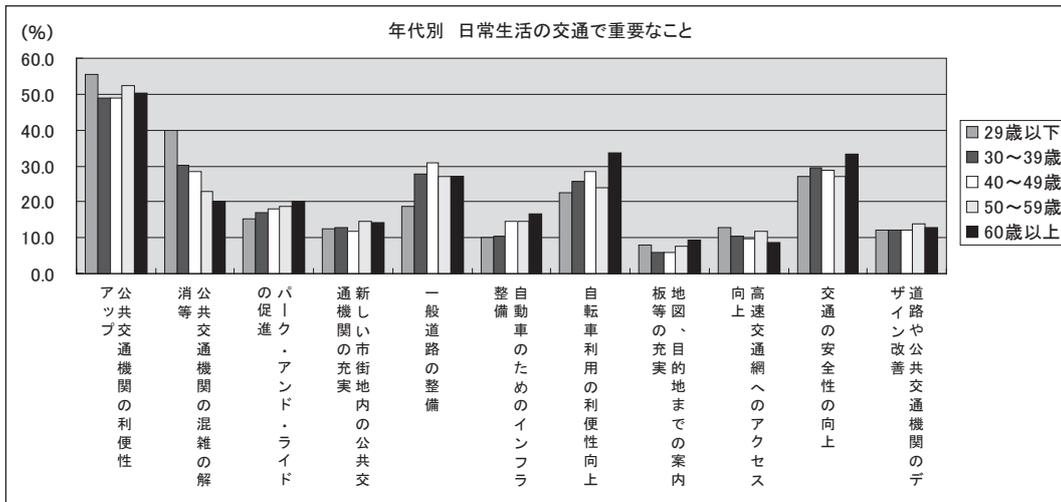


図4



3. 将来暮らしてみたい都道府県

(1) 全国都道府県の人気ランキング (表10)

本ランキングを集計するにあたり、人口や回答者の多い都道府県が上位にランキングされる問題を解決するため、回答者の分布の偏りを修正し各県の回答者を100としたうえで各都道府県の支持率を算出した。

表10 都道府県毎の回答者の人数を均した後の支持率

将来暮らしてみたい都道府県ベスト

順位	都道府県	支持率 (%)
1	沖縄県	12.40
2	東京都	7.95
3	北海道	7.58
4	神奈川県	5.96
5	京都府	5.19
6	福岡県	4.66
7	兵庫県	3.70
8	静岡県	3.29
9	大阪府	2.89
10	宮城県	2.83
11	長野県	2.75
12		
13	愛知県	2.48
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20	石川県	1.32
21		
22		
23		
24	岐阜県	1.20
25		
26		
27		
28	富山県	1.11
29	三重県	1.03
30	滋賀県	1.01
31	福井県	0.96

ランキングを個別に見て行くと、観光地として知名度が高い沖縄が全国の都道府県の居住者から満遍なく支持を得てトップとなった。同県は観光で訪問した人々からの支持のみならず訪問、または居住経験の無い人々からも高い支持を得ている（図5）。沖縄県の自然とゆったりした時間に多くの人が魅力を感じ、イメージ的にも高評価を得ていると考えられる（図6）。同様に北海道も各都道府県の回答者から支持を得て3位に入った。5位の京都府は地域に関係なく20代の女性に支持され、その歴史・文化について評価が高い（図7）。他にも観光地として有名であったり、政治経済の中心都市を擁する都道府県が上位にランクインした。そして観光や仕事でその都市に滞在した際の好印象が大きな動機づけになっている。

中部圏は静岡県が8位、長野県が11位にランクイン。両県とも自然環境の魅力に対する評価が高い。中でも長野県はシニア男性層からの支持が比較的高い。13位の愛知県への居住希望理由は実家が愛知県であること以外に「働く場所がある」、「通勤通学が便利」となっており、文化、観光地としての魅力より「働く場所」として評価されたと言える。

人々がより良い生活を求める条件としては豊かな自然や住みやすい気候に加え文化・歴史を重要視していることがうかがえる。

図5

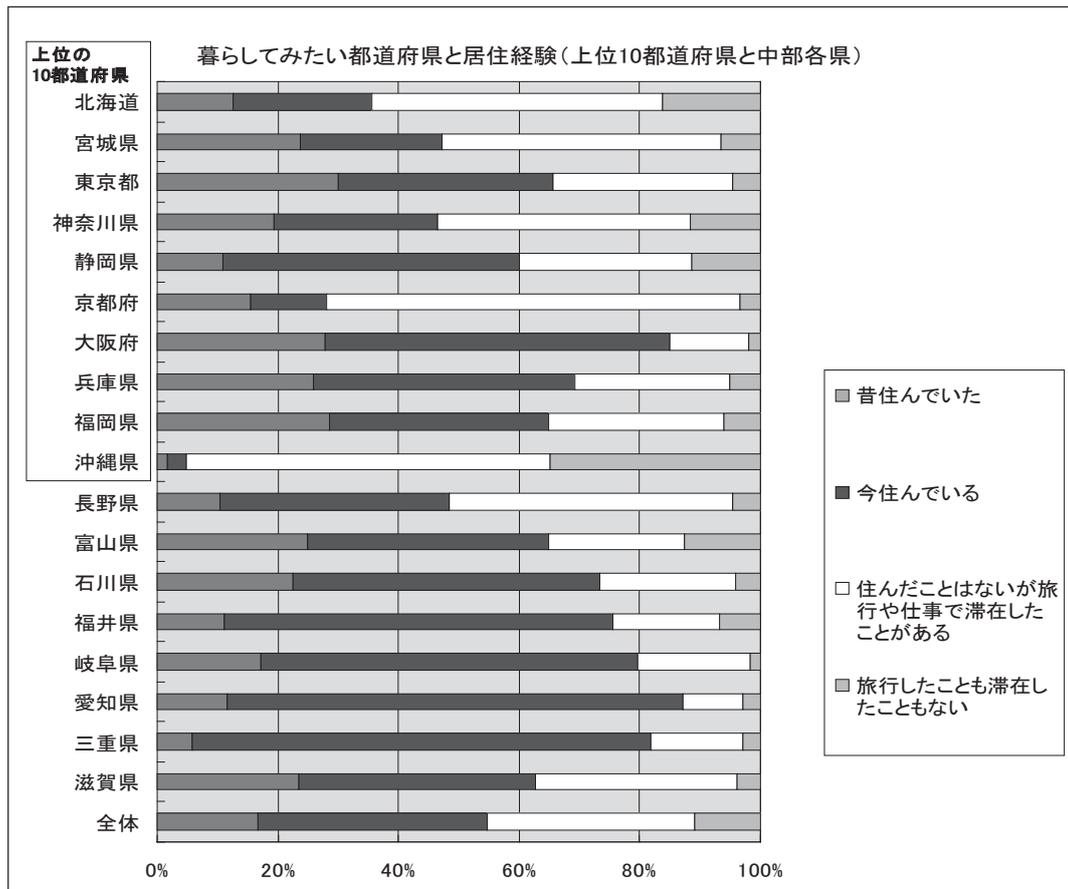


図6

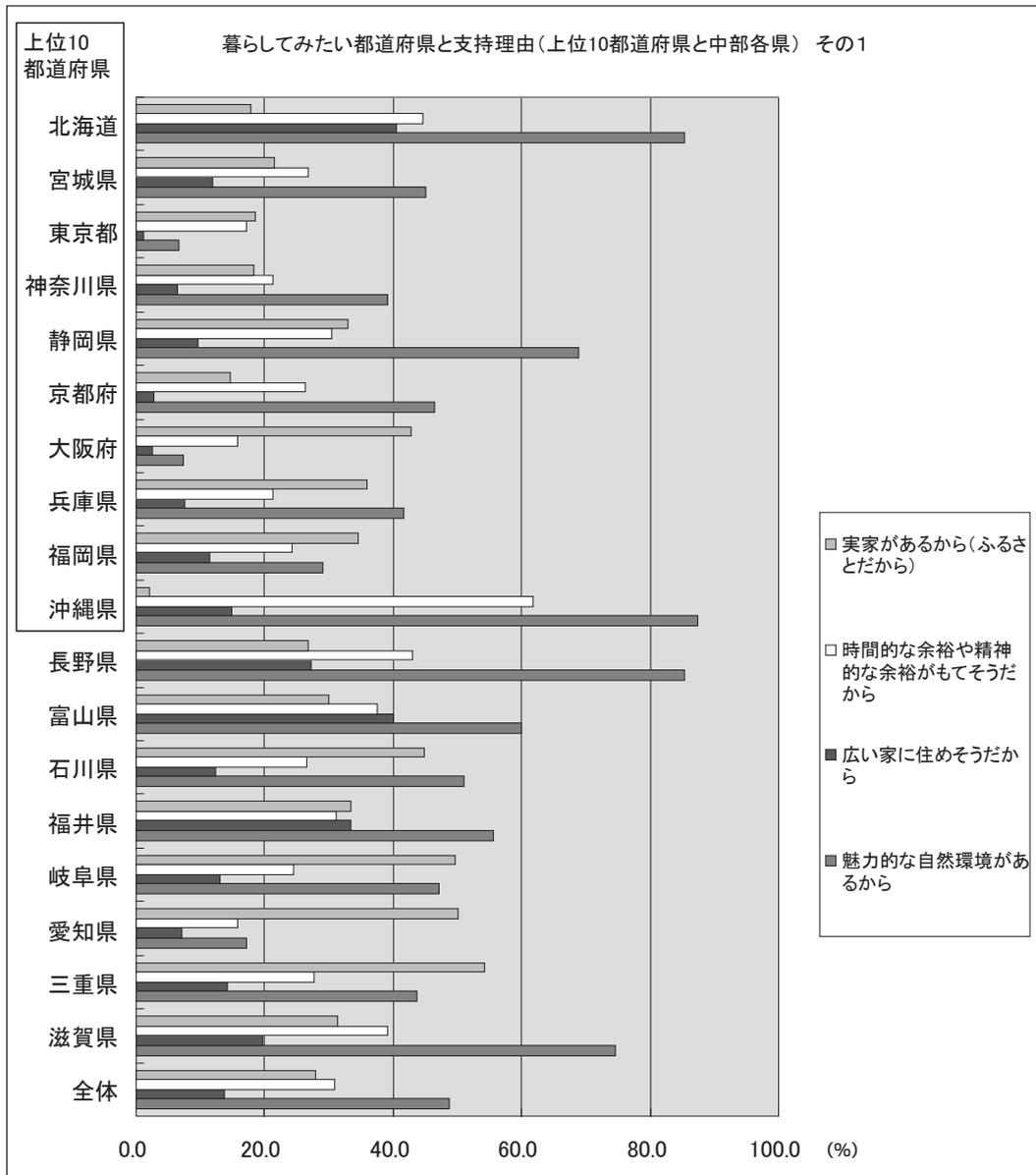
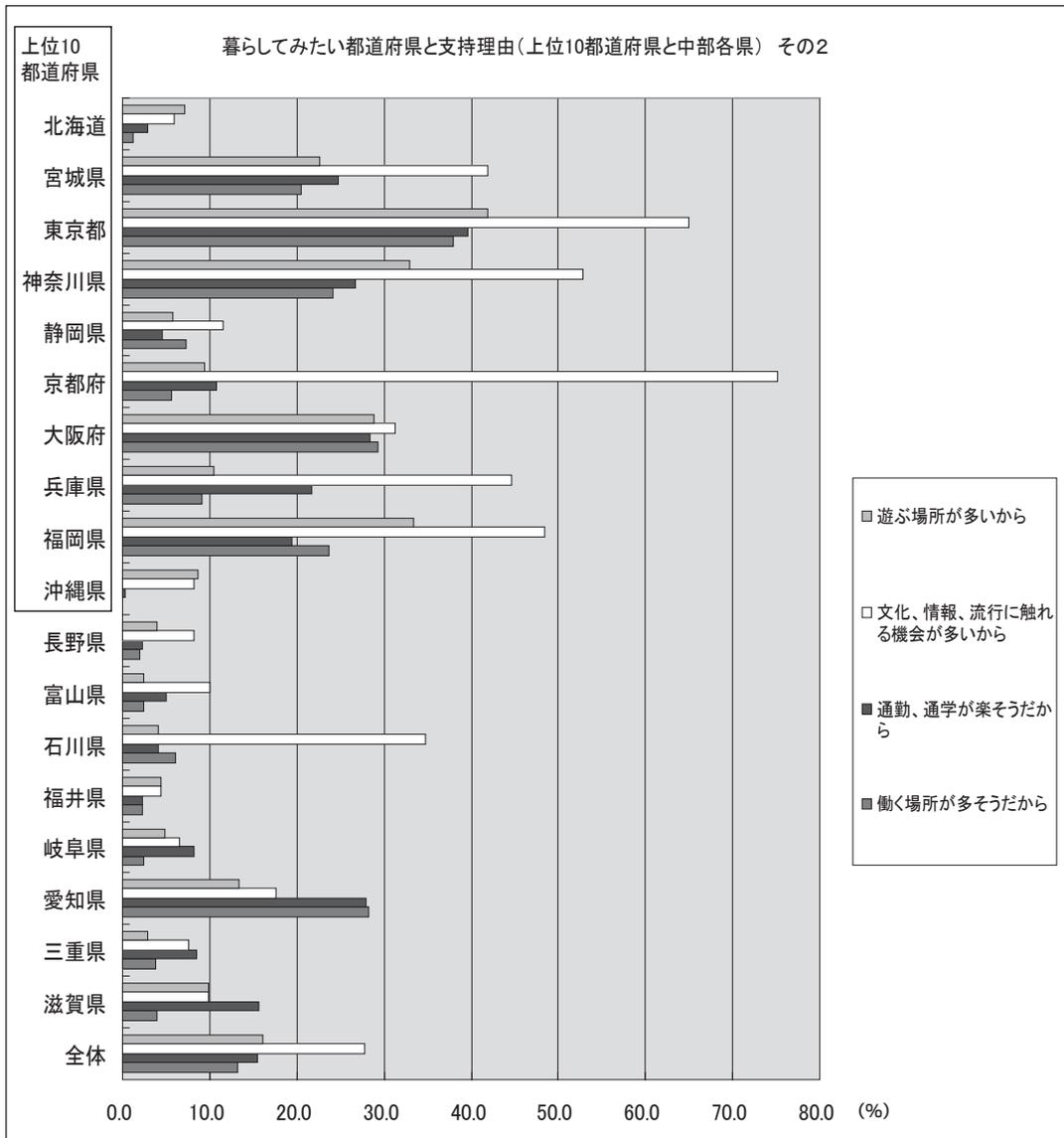


図7



(2) 県別にみた地元に対する愛着について

・「将来地元で暮らしたい」ランキング（表11）

次に各都道府県の居住者の地元への愛着、地元指向について探ってみた。中部圏は昔から地元志向が強いと言われていたが、意外にそれ程でもないことが今回のアンケートから判明した。

「将来地元で暮らしたい」とした回答者の多い都道府県は、有名な観光地や政治・文化の中心となる都市が県内に存在する都道府県であり、前述の全国都道府県の人気ランキングの順位に近い結果となった。「将来暮らしてみたい」と全国の居住者に思わせる都道府県は、地元の居住者にとっても魅力的な地域であるといえる。

表11

順位	都道府県	比率
1	北海道	64.09
2	沖縄県	56.25
3	東京都	55.88
4	兵庫県	52.43
5	福岡県	50.41
6	高知県	45.45
7	神奈川県	44.69
8	石川県	44.64
9	京都府	39.80
10	広島県	39.58
11	長野県	39.20
12	愛知県	38.85
14	福井県	38.55
15	静岡県	38.55
25	三重県	34.48
27	富山県	34.09
29	滋賀県	31.25
32	岐阜県	30.11
全国平均		35.36

4. まとめ

当センターでは過去2003年、2008年と5年毎に「暮らしに関するアンケート調査」を実施してきた。今回は前回調査から2年しか経過していないにもかかわらずアンケート調査を実施したが、それは「100年に1度」と言われたリーマンショックが前回調査の直後に発生しており、リーマンショックが我々の暮らしに与える影響を知りたいと考えたからである。

今回のアンケート結果では、「暮らしを楽しむ魅力」が大幅に低下したものの、それ以外の生活の基礎に関わる項目での満足度は前回比低下は見られない。

これは、景気悪化による収入の減少、将来への不安により、社会全体として「暮らしを楽しむ」余裕は無くなったものの、過去に築き上げたストックにより、生活基盤そのものは維持できているということであ

ろうか。この辺りの疑問は今後の研究課題としたい。

また、「より良い暮らし」を求める上で人々が重要と考える条件も多く示された。「医療や福祉サービスの充実」、「公共交通機関の充実」に加えて「魅力的な自然環境」や「文化・情報に触れることができる」など、今後より良い生活環境を築いていく上で考慮すべき課題であろう。

【設問】

アンケートの設問（その1）
Q1：現在お住まいのまちの「住環境の良さ（静けさ、町並みなど）」に関する満足度は？
Q2：現在お住まいのまちの「緑の多さや自然の豊かさ」に関する満足度は？
Q3：現在お住まいのまちの「教育環境の良さ」に関する満足度は？
Q4：現在お住まいのまちの「高等学校や専門学校、大学など、進学できる教育機関の選択肢の多さ」に関する満足度は？
Q5：現在お住まいのまちの「気候の良さ」に関する満足度は？
Q6：現在お住まいのまちの「通勤や通学の便利さ」に関する満足度は？
Q7：現在お住まいのまちの「通勤や通学時の公共交通機関の混雑度」に関する満足度は？
Q8：現在お住まいのまちの「バスや鉄道といった公共交通機関の充実度」に関する満足度は？
Q9：現在お住まいのまちの「スーパーマーケット、コンビニなど日常の買い物の便利さ」に関する満足度は？
Q10：現在お住まいのまちの「高速道路や新幹線など高速交通網へのアクセス」に関する満足度は？
Q11：現在お住まいのまちの「ショッピング（デパート、専門店など）の魅力」に関する満足度は？
Q12：現在お住まいのまちの「テーマパークや遊園地など、遊べる施設の充実度」に関する満足度は？
Q13：現在お住まいのまちの「公園やテニスコート、ゴルフ場など手軽にスポーツを楽しめる施設の近さ」に関する満足度は？
Q14：現在お住まいのまちの「美術館や博物館、コンサートなど文化的な魅力に触れる機会の多さ」に関する満足度は？
Q15：現在お住まいのまちの「最先端の流行や情報に触れる機会の多さ」に関する満足度は？
Q16：現在お住まいのまちの「救急病院や保健所など、保健・医療施設の充実度」に関する満足度は？
Q17：現在お住まいのまちの「治安の良さ」に関する満足度は？
Q18：現在お住まいのまちの「地震や台風など災害への対策」に関する満足度は？
Q19：現在お住まいのまちの「子育てに対する地域の支援」に関する満足度は？
Q20：現在お住まいのまちの「福祉やバリアフリーといった高齢者などへの支援」に関する満足度は？

満足度は 5 = 高い（良い）、4 = やや高い（やや良い）、3 = 普通、2 = やや低い（やや悪い）、1 = 低い（悪い）の中から選ぶ

アンケートの設問（その2）	
Q21：今後、現在あなたが住むまちの暮らしをよりよくするために必要なことはどのようなことと思われますか。3つまでお選び下さい。	<input type="checkbox"/> 住環境（静けさ、街並みなど）の向上 <input type="checkbox"/> 身近な自然環境の保護 <input type="checkbox"/> 教育環境の向上 <input type="checkbox"/> バスや鉄道など公共交通機関の充実 <input type="checkbox"/> スーパーマーケットの充実など日常の買い物の利便性向上 <input type="checkbox"/> 高速道路や新幹線といった高速交通網へのアクセス向上 <input type="checkbox"/> ショッピングやレジャーの魅力の向上 <input type="checkbox"/> スポーツや文化に親しむ機会の充実 <input type="checkbox"/> 高齢者などに配慮したバリアフリー化の促進 <input type="checkbox"/> 医療や福祉サービスの充実 <input type="checkbox"/> 子育てに対する地域の支援 <input type="checkbox"/> 地震や台風などの災害への対策 <input type="checkbox"/> 凶悪化・日常化する犯罪への対策
Q22：現在あなたが住むまちの「日常生活（通勤・通学・買い物・通院等）で利用する交通」に関して、今後最も重要と考えることは何ですか。3つまでお選び下さい。	<input type="checkbox"/> 公共交通機関の利便性アップ（時間の短縮、市街地へのアクセス充実、増便等） <input type="checkbox"/> 公共交通機関の快適性アップ（混雑の解消等） <input type="checkbox"/> パーク・アンド・ライドの促進（公共交通機関の駅の近くの駐車場整備等） <input type="checkbox"/> 新しい市街地内の公共交通機関の充実（LRT*の導入、市電の復活等） <input type="checkbox"/> 一般道路の整備 <input type="checkbox"/> 自動車のためのインフラ整備（市街地内駐車場の充実、駐車メーターの増設等） <input type="checkbox"/> 自転車利用の利便性向上（駐輪場の増設、自転車専用道の充実等） <input type="checkbox"/> 地図、目的地までの案内板等の充実 <input type="checkbox"/> 高速道路や新幹線といった高速交通網へのアクセス向上 <input type="checkbox"/> 交通の安全性の向上 <input type="checkbox"/> まちの景観を高めるような道路や公共交通機関のデザイン改善
Q23：あなたが将来暮らしてみたいと思う都道府県をお選びください。	
Q24：「あなたが将来暮らしてみたいと思う都道府県」について、その都道府県を選ばれた理由は何ですか。あてはまるものをいくつでもお答え下さい。	<input type="checkbox"/> 魅力的な自然環境があるから <input type="checkbox"/> 広い家に住めそうだから <input type="checkbox"/> 時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから <input type="checkbox"/> 災害や犯罪に対する不安が少なそうだから <input type="checkbox"/> 実家があるから（ふるさとだから） <input type="checkbox"/> 働く場所が多そうだから <input type="checkbox"/> 通勤、通学が楽そうだから <input type="checkbox"/> 文化、情報、流行に触れる機会が多いから <input type="checkbox"/> 遊ぶ場所が多いから <input type="checkbox"/> 教育施設が充実しているから
Q25：「あなたが将来暮らしてみたいと思う都道府県」についてお聞かせ下さい。選ばれた都道府県とあなたの関係は次のどれですか。1つだけお選び下さい。	<input type="checkbox"/> 昔住んでいた <input type="checkbox"/> 今住んでいる <input type="checkbox"/> 住んだことはないが旅行や仕事で滞在したことがある <input type="checkbox"/> 旅行したことも滞在したこともない